

人類学博物館紀要 第 44 号
(ISSN 0388-8711)

南山大学人類学博物館紀要

第 44 号

南山大学人類学博物館

2025

人類学博物館紀要 第 44 号
(ISSN 0388-8711)

南山大学人類学博物館紀要

第 44 号

南山大学人類学博物館

2025

巻頭言

まずは博物館のある場所の話をしてしよう。現在、南山大学人類学博物館がある南山大学のキャンパスは、1964年に竣工し、モダニズム建築の巨匠アントニン・レーモンドの手によってその全体がデザインされたことで斯界において名を馳せている。それから60年以上を経る中で、人類学博物館はキャンパス内を幾度か移動している。記録によれば、1964年のキャンパス竣工当時は図書館の地下1階に配置されており、約10年後の1973年に図書館の3階、さらに10年後の1983年にG棟の地下に移り、その30年後の2013年にR棟の地下に移るとともに、ユニバーサル・ミュージアムとしてリニューアルオープンした。それから10年以上が経過して、人類学博物館がどこにあるかは定着してきたはずなのだが、実際には現在もなお、南山大学のこんなところに博物館があったのかと驚く人は、何年も通っている学生を含めて皆無ではない。

人類学博物館リニューアル後も様々な取り組みが行われ、2019年度実施の外部評価委員会報告（『南山大学人類学博物館紀要』第39号所収）を経て、制度的な整備も進められてきたが、未だ道半ばであり、現在、2024年度より始まった新たな人員体制のもと、さらなる整備と改善を試みているところである。いくつもの課題はあるものの、差し当たり、すでに年間で実施されている数々の企画、催事、展示等の情報とその魅力をいかに学内外の潜在的な来館者にそのつど効果的に伝えるかという広報面の取り組みは今後強化すべき重点課題である。また同時に、潜在的な来館者として想定される知的な対象層をより広く捉えつつ大学博物館としてのアカデミックな役割を柔軟に果たしていく試みも重要であろう。今号所収の論考・記事が既刊の号に比べてやや砕けた内容となっているのは、そうした試みの一環とご理解いただきたい。それに伴い、今号より、紀要掲載カテゴリーを研究論文、調査報告、資料紹介、研究ノート、実践報告、その他という6つに分けて明記することで、学術的貢献の奥行きにとどまらず幅を広げながらその質を担保することとした。本紀要のあり方についてはもうしばらく試行錯誤が続きそうだが温かく見守っていただければ幸甚である。

2026年2月

南山大学人類学博物館紀要編集委員会

目 次

巻頭言

【実践報告】

「第1回推しどきっフレンズ総選挙」の開催について

..... 瀧はる香... 1

【研究ノート】

「お気に入り」探しの博物館体験～‘触る’+‘対話’が紡ぐ「言葉」研究に向けて～

..... 鈴木康二... 9



画像2 Web投票フォーム

3. 実施内容・経過

(1) 準備段階

開催時期に参議院選挙を実施することが確定したため、掲示物などのデザインは実際の選挙に寄せた。

館内ポスターは、全キャラクターをまとめたもの(画像4上)と、キャラクター1体ずつの選挙風ポスター(画像4下)の2種類を作成し、いずれにもWeb投票用のQRコードを掲載した。来館者の目に触れやすいように、館内各所にこれらのポスターと投票所までの案内を掲示した。

(2) 投票手段と運営

2(4)でも記述したが、現地投票とWeb投票の併用で実施し、幅広い層に参加してもらうことをねらいとした。

(A) 現地投票

館内1階展示ホール(無料スペース)に「投票所」を設置した。前述したキャラクターの選挙風ポスターを掲示し、その前に投票箱2つと投票用紙(画像5)、筆記具を配置した。投票用紙には全キャラクターの画像および名前を掲載し、投票したいキャラクター1体に丸をつけて、投票箱に入れる形式とした。「1人1

表1 どきどきフレンズ一覧

キャラクター	名前	プロフィール
	はっちー	八王子遺跡(大和町苅安賀)出身。ちょっと小柄。おまつりときくとテンションがあがらずにはられない。
	ながつぼくん	山中遺跡(大和町苅安賀)出身で、そろばん玉のようなボディが特徴。休みの日は1日座っているインドア派。
	どきどきちゃん	北川田遺跡(大和町苅安賀)出身。弥生時代につくられたパレススタイル土器。ごはんが大好きなくいしんぼう!
	ジョニー	出身地は不明だが、東北あたりとのウワサがある。他の子たちとのジェネレーションギャップに悩んでいる。
	ころりん	八王子遺跡(大和町苅安賀)出身。「ひさご(ひょうたん)に似ているね」とよく言われる。おまつり大好き。
	しろみちゃん	千秋町塩尻出身。用水をつくろうとして2mほど掘った時に見つかった。肌が白いのを褒められることが多い。
	どき兄	元屋敷遺跡(丹陽町伝法寺)出身。日本全国に親戚がいる。兄貴らしきを出そうとして方向性を間違えた模様。
	あかみん	苗代遺跡(萩原町林野)出身。お肌の赤みが落ちているのが気になってきたので、最近「美赤」をがんばっている。
	あかまる	山中遺跡(大和町苅安賀)出身。真っ赤に塗られたボディが特徴的。いつも笑っているように見えるが、本心は不明。

票」といった制限は設けなかった。

「投票所」は順路どおりに観覧した来館者が必ず通過する場所であり、無料スペースのみ利用する来館者でも投票できる位置にした。また正面入口からも視認できる位置であったため、意図せず外部からの注目も

黒書土器は、土器に文字や記号、絵などが書かれ（描かれ）ている土器のことをいいます。残された文字や記号からは、当時の文字の広がりや文字についての人々の捉え方を考えることができます。一宮市内では多くの黒書土器が見つかっており、愛知県下でも出土数が多い地域です。本展では、市内の出土資料を中心に黒書土器について紹介します。

学芸員による展示解説
 日時 6月21日(土) 午後2時から30分程度 定員 なし 参加費 無料(ただし観覧料が必要) 申込 不要

体験講座「作って、書いて、黒書土器」 ※同日参加できる方
 日時 【作る回】7月26日(土) ①午前10時～11時30分 ②午後2時～3時30分
 【書く回】8月3日(日) ③午前10時～11時 ④午後2時～3時
 対象 小学生以上(保護者同伴可) 定員 ①・②と③に20人(各回) ④は7月26日に参加された方
 内容 土器を作って、黒書します。
 文字・記号・絵などを土器に書いてオリジナルの一品を!
 参加費 500円(観覧料を含まない。初回のみ支払)

博物館講座「尾張平野を語る29 地域の資料を読み解く」
 第2回「日本古代文字文化の周辺～黒書土器とは～」 講師 三上恵孝氏(国立歴史民俗博物館教授)
 日時 7月13日(日) 午後2時～3時30分(午後1時30分開場) 会場 博物館1階講座室
 定員 60人(先着)
 参加費 600円(高・大学生300円)(観覧料含む。有効期限内の保護観察年報観覧券を持参で無料)
 申込 博物館WEBサイトから電子申請、またははがきにて郵便番号・住所・参加者名(ふりがな)・年齢・学年・保護者名・電話番号・希望の時間帯を記入し(黒書土器と明記の上)、郵送
 申込期間 【電子申請】6月14日(土)午前9時～7月18日(金)午後5時 【はがき】7月18日(金)必着

第1回推しどきフレンズ総選挙
 投票期間 7月19日(土)～8月31日(日)
 結果発表 9月13日(土)
 1位になったキャラクターは新グッズ化...!?
 詳しくは博物館WEBサイトを覗いてください。

たいけんの森 わくわく体験 縄文ころろ
 日時 7月5日(土)～9月28日(日)の土日祝(夏休み期間中は毎日)
 午前9時30分～正午 午後1時～4時30分
 参加費 無料 (高校生以上100円)
 申込 不要

公式サイト Ichinomiya City Museum 一宮市博物館
 〒491-0922 一宮市大森町3番地2390
 TEL 0586-46-3215 FAX 0586-46-3216
 URL https://www.icm.jp.com
 電車でのアクセス
 名鉄名古屋本線「妙美中」駅南口より徒歩7分
 ニコニコふれあいバス「博物館前」より徒歩5分

SNS 各種
 @138citymuseum
 ichinomiya_city_museum
 ichinomiya.city.museum
 @138citymuseum

画像3 掲載リーフレット

第1回
お推しどきフレンズ
 そう せん きよ
総選挙

投票期間 2025年 7月19日(土) 9時30分 ▶ 2025年 8月31日(日) 17時00分

投票方法 一宮市博物館内特設コーナーで! インターネットで!

結果発表 2025年 9月13日(土) 一宮市博物館 Ichinomiya City Museum

1位は限定グッズ化か!?

集まっていたように感じる。

投票箱からは週に1回の頻度で、投票用紙を回収・集計した。途中経過は掲示せず、会期終了後にWeb投票分を含めて最終集計を行った。投票箱周辺では、親子連れや友達同士でキャラクターを見比べながら楽しそうに投票する様子が多く見られた。

(B) Web投票

キャラクターの画像から1体を選んで投票する。1回につき1体のみ投票とした。ただ、システムの都合上、投票回数に制限を設けることができなかったため、結果としては1日で複数回の投票も可能であり、時を空けずに票が入っていた事例もあった。

4. 課題・工夫

ポスターを選挙風にしたことで、投票への興味を引く効果があった。ただし、キャラクターのプロフィールが簡易的にしかなかったため、魅力を十分に伝えきれなかった。

投票所への導線や設置場所は概ね良好で、来館者が順路どおりに通るだけで投票可能であったが、受付か

7
どき兄
 みんなの兄貴を目指します!
 おんががわしきやいどきつぽ
遠賀川式弥生土器壺
元屋敷遺跡(丹陽町伝法寺)出身
弥生時代

画像4 選挙ポスター

上：全キャラクター 下：個別選挙風ポスター



画像5 投票用紙

ら奥まった位置にあるので、常設展示を観覧しない来館者には気づきにくい場面もあった。今後は案内表示の掲示位置や方法を変更し、さらにスムーズな誘導を期したい。

投票用紙は選挙風にし、投票のルールは投票用紙に示した。大人には慣れ親しんだ形式であり、特に問題はなかったものの、小さい子どもにはわかりにくく、無効票を生じさせてしまった。投票ルールをポスターと並べて大きく掲示すれば、今後無効票が減らせるであろう。

Web投票と現地投票の併用は利便性が高く、多様な来館者が参加できた。Web投票数が想定より伸び悩んだため、今後はSNS上で積極的にWeb投票のアクセス案内を行うことで、さらに参加率向上を期待したい。

5. 結果と反響

投票総数は852票で、内訳は現地投票763票、Web投票89票であった。なお、現地投票では、複数記入などの無効票が16票あったため、正確な現地投票数は779票となる。会期中の来館者数は、4,307名であり、来館者の約2割が投票に参加したことになる。

投票結果(画像6参照)では、1位から5位までのキャラクターはその差30票の中にまとまる激戦であり、5位と6位の間は40票近くの差がひらいた。

1位のジョニーはキャラクターの造形に加え、縄文土器という特徴が大きく評価された結果と考えられ、特にWeb投票では圧倒的な得票数を獲得した。

2位のどきどきちゃんは、どきどきフレンズの中で初めに誕生したキャラクターであり、コロナ禍のオンライン見学でも使用されるなど、来館者に馴染み深い存在であった。

3位以下のキャラクターは登場回数や使用頻度に大きな差はなく、純粋なキャラクターの魅力が反映された結果だと考えられる。

また、投票期間中はどきどきフレンズ関連グッズの売上が通常より多かった。特にガチャガチャの売れ行きがよく、年間平均300個売れる中、期間中で151個売り上げた。これにより、キャラクターを軸とした博物館の広報、収益面での効果も確認できた。

メディアでも広く取り上げられ、開始直前に地元ラジオ局と地元新聞の取材があった。特に地元新聞では、記事冒頭で「熱戦の参院選の裏でもう1つの選挙戦」として取り上げられ、普段よりも広い地域で掲載された(画像7)。また投票結果発表時にも同地元新聞から取材があり(画像8)、NHKの地元放送局による番組のクイズコーナーの問題に取り上げられるな



画像6 投票結果



画像7 「総選挙開催」の新聞記事（中日新聞 2025年7月10日朝刊 尾張面）



画像8 「選挙結果」新聞記事（中日新聞 2025年9月17日朝刊 尾張面）

ど、東海三県内における認知度向上に繋がった。

6. 考察

まず投票結果から見える傾向として、上位を占めたのは縄文土器、赤彩土器のような土器自体の特徴がはっきりしているキャラクターだ、ということである。初めてどきどきフレンズを目にした来館者の票は、この印象的なキャラクターに流れた可能性も指摘できるかもしれない。また、全てのキャラクターに得票があったことは興味深く、順位を問わずどのキャラクターにも一定のファンが存在している可能性もありそうだ。

広報活動は、通常の展覧会やイベント時と同様の手法で行っている。しかし今回は想定以上にマスコミを含む各所で取り上げられたことの影響が大きい。その要因としては、地元記者のキャラクターたちへの愛と、参院選と重なった时期的な話題性の相乗効果が大きかったと考えられる。取材に訪れた地元新聞の記者は、従前からどきどきフレンズのファンであり、筆者に会うたびにその思いを語っていた人物である。キャラクター関連の小さなお知らせでも毎回取材・記事化しており、その熱意が今回の広範囲での掲載にも繋

がった。記者の弁では「土器という博物館で素通りされがちな地味なモノを全面的に推している点と、キモかわいいまではいかない絶妙な可愛さが魅力のひとつ」とのことであり、外部から見たどきどきフレンズの魅力を示す具体的な意見としても興味深い。

今後は投票結果をグッズ展開や広報活動に反映していくとともに、本催事を夏の定例行事として定着させていきたい。

7. まとめ

本企画は、キャラクターへの親しみや愛着をもってもらいつつ、遺跡や土器に興味をもつきっかけを提供することをねらいとしたが、キャラクター自体に注目が集まる機会が多く、「親しみや愛着をもってもらおう」部分に関しては、ある程度達成できたと考えている。その一方で、モデルとなった土器そのものや遺跡への興味関心へいかにつなげるかが今後の課題であろう。

また、継続的な開催にあたり、取材記者のような既存ファンの思いや意見を取り入れる仕組みを整えることで、さらに盛り上がりのあるイベントとして発展させていきたい。

The “1st general election of Oshidoki! Friends”: an event at Ichinomiya City Museum

TAKI Haruka

To enhance recognition of the original characters “Doki-Doki Friends” (anthropomorphized figures of pottery collection [‘doki’ means pottery in Japanese, with ‘doki doki’ revealing exciting feelings]), and to make opportunities for visitors to become interested in archaeological sites and potteries, Ichinomiya City Museum carried out an event “the 1st general election of Oshidoki! Friends” during school summer holidays (July 19–August 31, 2025) [‘oshi’ means faves in Japanese]. Combined with Web and on-site elections at the museum, which mimicked election posters and voting stations, the total number of votes reached 852 (779 on-site, 89 Web), indicating that around 20% of visitors participated in the election. The top winner was Jonny (Jomon pottery), but the election was very close, with only 30 votes separating the top and fifth winners. The event received widespread local recognition because it coincided with the House of Councillors election; local journalists were very interested in the event itself, and newspapers, radio stations, and NHK featured the issue. Some points needed improvement; the shortage of posters meant there was insufficient opportunity to introduce the characters’ appeal. Improvement of information display, clarification of voting rules, and promotion of participation in Web elections are also required. Generally, while the event, in terms of the concept “making the characters become familiar and loved”, achieved some success, it would be essential to make people interested in pottery and archaeological sites in the future. It is expected that, using the results of the election for public relations and merchandise, the event would be carried out as a regular project during the summer.

「お気に入り」探しの博物館体験

～‘触る’+‘対話’が紡ぐ「言葉」研究に向けて～

鈴木康二

はじめに

「あなたのお気に入りは何？」そう聞かれて、まず何を思い浮かべるだろうか？ 例えば、普段使いのマグカップや、カバン、あるいは靴とか服というのものもあるかも知れない。あるいは、ボールペンやスケジュール帳などの文房具の場合もあろうか。いずれにしても、自身にとってそれは「身近なモノ」である場合が多いであろうことは想像に難くない。

ちなみに、広辞苑（第六版：岩波書店）で調べてみると、「お気に入り」は「気に入る」の丁寧形、「気に入る」は、「自分の心によくなうこと。また、その人や物。」と記されている。必ずしも「身近なモノ」である必要はなく、「自分の心」と向き合っただけで見つかるモノである、とも言えそうだ。

筆者が所属する南山大学人類学博物館（以下「人類博」）は、「ユニバーサル・ミュージアムを目指す」「全ての人の好奇心のために」を標榜し、考古資料・民族誌資料を中心に様々な資料を収蔵・展示公開しつつ、その全ての資料に「触る」ことを積極的に推奨している大学博物館である。一般的な博物館・美術館では、資料・作品は、基本的に「観る」だけである場合が大半であるが、人類博では「まず触る・ふれてみる」ことを前提としている。

この人類博で、「あなたのお気に入りは何ですか？」というアンケート（以下「アンケート」とする）を実施していた。アンケート用紙を受付窓口置き、来館者に任意で回答してもらい、回答者には人類博オリジナル缶バッジを提供していたという（註1）。

本稿では、まずは、人類博の常設展示を概観しつつ、このアンケートの結果から見えてくるものを整理、考えてみたい。

人類学博物館「常設展示」の現状

さて、アンケート結果の分析に入る前に、改めて常設展示の構成等を整理しておきたい。図1および表1は、常設展示における資料の配置状況と、展示資料の一覧である。常設展示の特徴の一つは、いわゆる歴史系博物館で一般的な時系列・地域別の配列ではなく、その資料群の由来別に配置されている点であろう。

入り口から順に、大まかに整理しておくと、まず、エントランスには東山古墳（岐阜県可児市）で確認された家形石棺が、博物館のコンセプトや関連資料年表とともに展示されている。展示室に入ると、右手手前から、『信仰と研究』としてマリナーコレクション、グロート神父・日本考古学研究所関連の考古資料群、それからアウフェンアンガーコレクションではパプアニューギニアで調査・蒐集された民族誌資料が展示されている。また、丸木舟（考古資料：縄文時代か）、シングルアウトリガーカヌー（民族誌資料：アウフェンアンガーコレクション）が、展示スペースの一角を占める。そのまま右手壁沿いに、『南山の人類学・考古学研究』として、東ニューギニア学術調査団によって収集された民族誌資料・考古資料（洞窟遺跡調査資料：独立ケース）のほか、南山大学の教員らによって調査された入海貝塚・高蔵遺跡・瑞穂遺跡等の、土器を中心とする考古資料が並ぶ。また柱周りにはパプアニューギニアの精霊像が、独立ケースには、保美貝塚資料をはじめ、東海地域を中心に発掘調査・蒐集された考古資料が並ぶ。続く右手壁沿いには『南山に託す』として、鶴ヶ島市オセアニアコレクション（通称「今泉コレクション」）、西江雅之コレクションのほか上智大学西北タイ歴史・文化調査団によって蒐集された民族誌資料が配置されている。展示室奥壁に当たる部分に配置されたガラスケース内には、名古屋市指定文化財の大須二子山古墳で採集された甲冑や馬具、埴輪などの考古資料が展示されている。通路を挟んで左

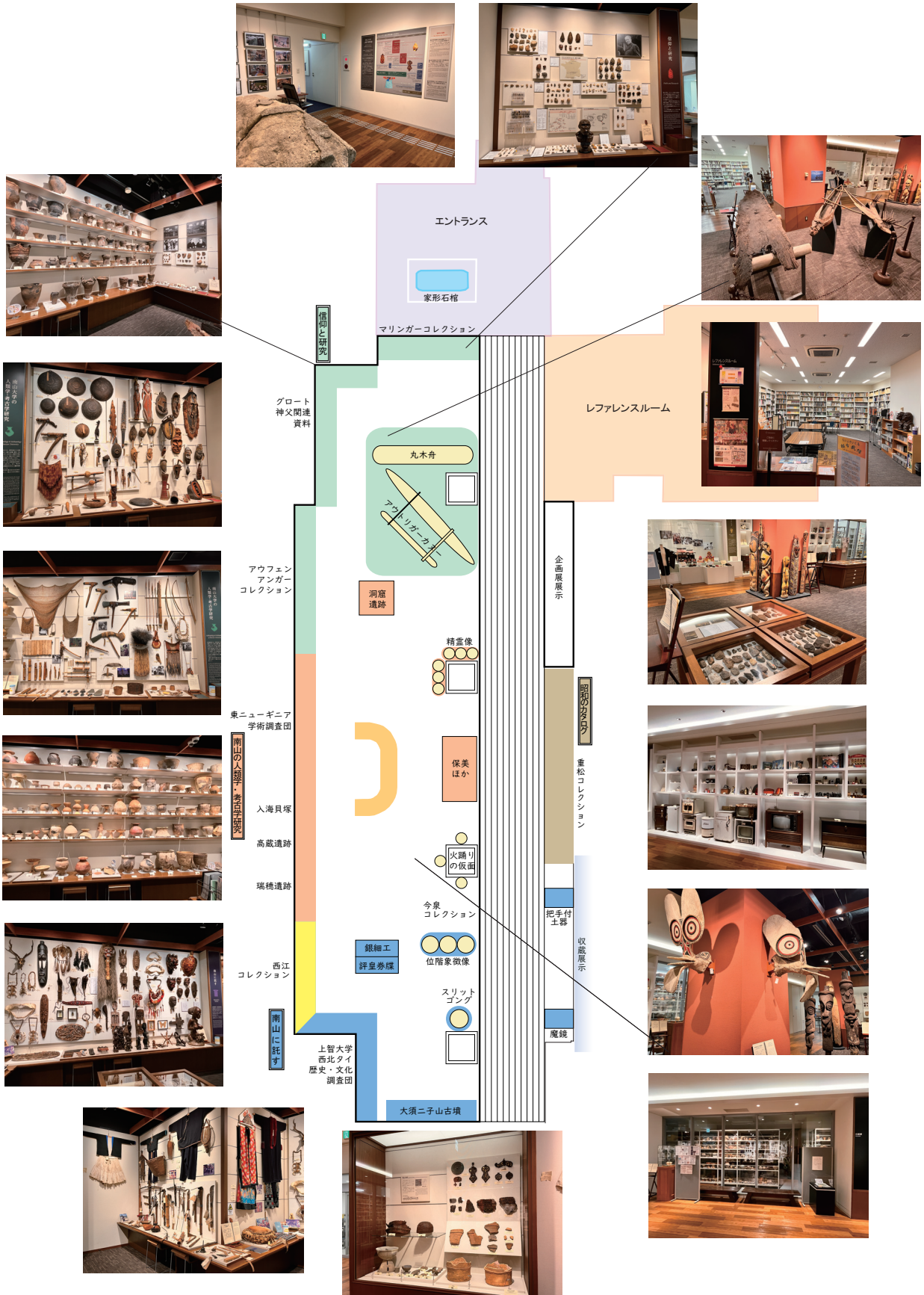


図1 南山大学人類学博物館 展示室 (平面図: およそ S=1/170)

表1 常設展示資料一覧

展示コーナー名	資料名	票数
マリンガー コレクション	尖頭状スクレイパー	0
	縦長剥片	0
	作業面再生剥片	0
	スクレイパー	1
	刃器	0
	使用痕を有する剥片	0
	両面加工石器	0
	片面加工石器	0
	磨製石器	0
	尖頭状石器	0
	ピック状礫器	0
	加工痕のある剥片	0
	使用痕を有する剥片	0
	剥片	0
	粉碎礫	0
	チョッパー	0
	チョッピングツール	0
	尖頭状石器	0
	礫塊	0
	バイフェイス	0
	ルバロワ石核	0
	剥片	0
	削器	0
	小型楔形石器	0
	削器	0
	搔器	0
	石核	0
	石核素材のスクレイパー	0
	スクレイパー	0
	サイドスクレイパー	0
	細石器	0
	尖頭器	0
	尖頭状削器	0
	円形搔器	0
	削器	0
	石核	0
	搔器	0
	彫器	0
	削片	0
	細石刃様の縦長剥片	0
加工痕のある剥片	0	
剥片	0	

展示コーナー名	資料名	票数
マリンガー コレクション	石核	0
	細石刃	0
	使用痕のある剥片	0
	二次加工痕のある剥片	0
	二次加工痕のある剥片	0
	削片	0
	細石刃	0
	剥片	0
	削器	0
	石核	0
	鳥の骨製首飾り	0
	骨角器	0
	骨角製サゲ槍	0
	搔器	0
	二次加工痕のある剥片	0
	細石刃	0
	剥片	0
	削器	0
	彫器	0
	石錐	0
	骨角製器・女性像（複製品）	1
	骨角製器・イモリ（複製品）	0
	骨角製器・尖頭器（複製品）	0
	骨角製器・馬（複製品）	0
	骨角製器・馬（複製品）	0
	骨角製器（複製品）	0
	縦長剥片	0
	搔器	0
	彫器	0
	搔器兼彫器	0
	縦長剥片	0
	石刃	0
	細石刃	0
	石刃	0
	石刃	0
	削片	0
	彫器	0
	搔器	0
	二次加工痕のある剥片	0
	細石刃様の縦長剥片（複製器）	0
細石刃（複製品）	0	
ルバロワ剥片	0	

展示コーナー名	資料名	票数
マリンガー コレクション	尖頭器	0
	グラヴェット型尖頭器	0
	石核	0
	加工痕のある剥片	0
	動物の牙(熊)	1
	加工痕のある剥片	0
	縦長剥片	0
	円形搔器	0
	不安定な剥片	0
	搔器兼彫器	0
	稜付き剥片	0
	小型の搔器	0
	動物の牙(熊)	0
	動物の牙(熊)	0
	木葉形尖頭器	0
	彫器	0
	搔器	0
	両端搔器	0
	木葉形尖頭器	0
	有肩尖頭器	0
	加工痕のある剥片	0
	石核	0
	搔器	0
	バイフェイス	0
	剥片	0
	尖頭器	0
	削器	0
	使用痕のある剥片	0
	剥片	0
	石核	0
	バイフェイス	0
	スクレイパー	0
	石刃状剥片	0
	使用痕のある剥片	0
	石核	0
	尖頭器	0
	尖頭状削器	0
	搔器	0
	バイフェイス	0
	スクレイパー	0
剥片	0	
原石器(曙石器)	0	

展示コーナー名	資料名	票数
グロート神父 関連資料	縄文土器	32
	花輪台式土器	0
	稲荷台式土器	0
	野島式土器	0
	花輪台式縄文深鉢	0
	押型文土器	0
	石匙	0
	剥片	0
	花輪台式土器	0
	深鉢/前期・勝坂式	15
	深鉢/前期・花積下層式	0
	深鉢/前期・黒浜式	0
	深鉢/前期・ニツ木式	13
	深鉢/中期・加曾利E式	17
	深鉢/中期	0
	浅鉢/後期・堀之内式	8
	深鉢/中期・阿玉台式	0
	深鉢/後期・加曾利E式	0
	深鉢/中期・勝坂式	0
	深鉢/後期・堀之内式	0
	深鉢/中期・加曾利B式	6
	浅鉢/後期・堀之内式	0
	深鉢/後期・安行2式	2
	壺/後期・堀之内式	0
	注口土器/後期・加曾利B式	0
	深鉢/後期・加曾利B式	0
	深鉢/後期・堀之内式	0
	浅鉢/後期・堀之内式	0
深鉢/後期・堀之内式	0	
深鉢/後期・堀之内式	0	
深鉢/中期・加曾利E式	0	
アウフェンアンガー コレクション	木製皿	1
	木彫り鳥像	4
	木彫りワニ像	6
	有刺剣	2
	鳥の装飾付き柄	0
	サゴヤシ用ハンマー	0
	櫛	0
	うなり板	0
	木彫り鳥像	0
	ヤシ製椀	0
ワニ型木製容器	1	

展示コーナー名	資料名	票数
アウフェンアンガー コレクション	腰みの	4
	ガラガラ	4
	骨製短剣	1
	骨製かんざし	5
	櫛	0
	びんろうじ割り器	2
	ココヤシ製笛	3
	首飾り	8
	キンマ用石灰入れとなめ棒	2
	祖霊像	3
	あかくみ	1
	腰掛け	10
	精霊像	0
	精霊像型壁掛け	0
	彩色木製壁掛け精霊仮面	2
	貝殻装飾付壁掛け精霊面	4
	貝殻装飾付壁掛け精霊面	0
	結納用藤編み製人面	4
	小型ヤムイモ儀礼用仮面	12
	ヤムイモ収穫儀礼用仮面	9
	木製壁掛け精霊仮面	5
	婚資用木製鳥付き藤製品	0
	彩色木製壁掛け精霊仮面	0
	木製壁掛け精霊仮面	0
	彩色木製壁掛け精霊仮面	0
	婚資用木製鳥付き藤製品	0
	木製壁掛け精霊仮面	0
	ハンドドラム	1
	精霊像	0
	東ニューギニア学術 調査団関係〈民族誌 資料〉	編み袋
ジュズダマ付き編み袋		0
小型編み袋		6
雨合羽		0
石鋏		0
竹笛		1
口琴		0
竹製パイプ		0
笛		0
実用石斧		4
儀礼用石斧		10
貝斧		0
矢		0

展示コーナー名	資料名	票数	
東ニューギニア学術 調査団関係〈民族誌 資料〉	矢と矢筒	0	
	弓	1	
	ヒクイドリの羽根製頭飾り	6	
	シロチョウ貝製貝貨付き首飾り	0	
	櫛	0	
	額飾り	0	
	ブタの牙の胸飾り	2	
	女性用腰みの	0	
	サイチョウの嘴製背飾り	1	
	ブタの毛付き前掛け	1	
	前下がりがり	0	
	腕飾り	0	
	脚飾り	0	
	貝製首飾り	1	
	シロチョウ貝製首飾り	1	
	櫛	0	
	ブタの牙製首飾り	1	
	子安貝のついた縄	1	
	鉄斧	0	
	ヒクイドリの爪製刺突具	0	
	木鋏	1	
	コガネムシ製頭飾り	0	
	ムシロ貝製貝飾り	0	
	腰帯	0	
	腰帯（樹皮製）	0	
	東ニューギニア学術 調査団関係〈考古資 料〉	d層出土石器／中型・小型打製石斧	0
		d層出土石器／中型・小型打製石斧	0
d層出土石器／磨製石斧		0	
d層出土石器／部分磨製石斧		0	
d層出土石器／剥片石器		0	
d層出土石器		0	
d層出土石器／剥片石器		0	
d層出土石器／尖頭器		0	
d層出土石器／石斧未成品		0	
d層出土石器／砥石		0	
d層出土石器／打製石器		1	
d層出土石器／円礫		0	
d層出土石器／環状石器		0	
d層出土石器／剥片石器		0	
a層・b層出土石器／刃部磨製石斧		0	
a層・b層出土石器／打製石斧	0		
c層出土石器	0		

展示コーナー名	資料名	票数
東ニューギニア学術調査団関係〈考古資料〉	d層出土石器／大型打製石斧	0
	d層出土石器／中型・小型打製石斧	0
	石器／磨製石斧	0
	石器／部分磨製石斧	0
	石器／打製石斧	0
	石器／凹みのある碟	0
	石器／剥片石器	0
	石器／部分磨製石ナイフ	0
	石器／剥片石器	0
入海貝塚関係	甕／深鉢・入海式土器模造品	1
	／早期・入海式	0
弥生土器	鉢／前期・遠賀川式	4
	甕／前期・遠賀川式	0
	鉢／後期・山中式	12
	甕／前期・遠賀川式	0
	壺／後期・山中式	0
	壺／前期・遠賀川式	0
	鉢／前期・遠賀川式	0
	甕／前期・遠賀川式	0
	壺／前期・遠賀川式	0
	壺／前期・条痕文系土器	1
	甕／前期・遠賀川式	0
	壺／前期・遠賀川式	0
	鉢／前期・遠賀川式	0
	壺／後期・山中式	0
	甕／後期・山中式	0
	鉢／前期・遠賀川式	0
	台附壺／後期・山中式	0
	／前期・条痕文系土器	0
	甕／前期・条痕文系土器	0
	鉢／前期・遠賀川式	0
	甕／前期・遠賀川式	0
	壺／後期・山中式	0
	甕／前期・沈線文系土器	0
	甕／前期・条痕文系土器	0
	壺／前期・遠賀川式	0
	甕／前期・遠賀川式	0
	壺／後期・山中式	0
	／後期・山中式	0
	小型壺／後期・山中式	0
	／後期・山中式	0
	鉢／後期・山中式	0

展示コーナー名	資料名	票数
弥生土器	壺／後期・山中式	0
	甕／後期・山中式	0
	／古墳時代前期の土器	3
	／後期・山中式	0
	壺／後期・山中式	0
	長頸壺／後期・山中式	0
	器台／後期・山中式	0
	台附甕／後期・山中式	0
	パレス壺／後期・山中式	1
	／前期・遠賀川式	0
	／遠賀川式（初圧痕付）	0
	パレス壺／後期・山中式	0
	壺／後期・山中式	0
	鉢／後期・山中式	0
	高杯／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	1
	／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
	／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
	浅鉢／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
	／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
	小型壺／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
	小型壺／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
	小型壺／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
	小型壺／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
	高杯／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
	台附甕／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
	器台／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
	小型壺／後期・山中式	0
	小型壺／後期・山中式	0
	小型壺／後期・山中式	0
	小型壺／後期・山中式	0
	器台／後期・山中式	0
	台付盥／後期・山中式	0
	／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0
／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0	
台付壺／後期・山中式	0	
／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0	
／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0	
／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0	
／後期末・廻間Ⅰ式土器併行期	0	
今泉コレクション	火踊りの仮面	69
	位階象徴像	50

展示コーナー名	資料名	票数
今泉コレクション	スリッド・ゴング	37
保美貝塚	瘤付土器	0
	深鉢／安行 3a 式土器	0
	深鉢／安行 3c 式土器	0
	／大洞 B 式土器	0
	／大洞 B 式系の三叉文を有する土器	0
	深鉢／大洞 BC 式土器	0
	／大洞 C1 式土器	0
	／中部高地系土器	0
	深鉢／杉田 A 類似土器 (3点接合済)	0
	／榎原式紋様を有する土器	0
	深鉢／桜井式土器	0
	／桜井式土器	0
	／榎原式紋様を有する土器	0
	深鉢／桜井式土器	0
	／桜井式土器	0
	深鉢／五貫森式土器	0
	／五貫森式に伴う浅鉢形土器	0
	／晩期の深鉢形土器	0
	磨製石斧	0
	石棒	3
	装身具 (垂飾)	1
	小型石製品	0
	装身具 (垂飾)	0
	石鏃	0
	スクレイパー	0
	調整ある剥片	0
	礫石錘	0
	敲石	1
	打製石斧	0
	深鉢	0
	貝素材／ベンケイガイ	0
	貝輪／ベンケイガイ	0
	貝輪製作用石器	1
	貝輪製作用石器 (砥石)	0
	ヤス	0
	根挟み	0
	釣針	0
	弓筈形骨器	0
	装身具	0
	鹿角製装身具類	0
	叉状骨器	0

展示コーナー名	資料名	票数
保美貝塚	根挟み	0
	装身具	0
	筭	0
上智大学 西北タイ歴史・文化 調査団	木櫛	0
	男子上衣	0
	男子袴	0
	魚網	0
	水煙管	0
	火薬入れ	0
	弩	4
	捕鳥器	3
	小鍬	0
	鏝	0
	鍬	0
	鉈	0
	製紙用具	0
	小鍬	0
	ヒョウタン型水入れ	1
	捕鳥器	0
	矢	0
	水煙管	0
	小鍬	0
	背負子	0
	男性用上衣	0
	男性用ズボン	0
	籠	0
	蘆笙	0
	腰刀	3
	弩	0
	パチンコ	0
	パチンコの弾入れ	0
	小鍬	0
	鉈	1
	穂摘み具	1
	大鍬	0
	大櫛	0
	竹皿	0
	蘆笙	0
	ヒョウタン型容器	0
	女性用上衣	0
女性用スカート	1	
祭司の頭飾り	0	

展示コーナー名	資料名	票数
上智大学 西北タイ歴史・文化 調査団	祭司の上衣	0
	祭司の袴	0
	女性用上衣	0
	女性用ズボン	0
	太鼓	39
	撥	0
	女性ズボン用刺繍布	1
	儀礼用鈴	1
	祭司が使う占い石	2
	葬儀の呪符	0
	妖怪を追い払うための木製の剣	6
	卦具	0
	馬牌	0
	首輪	1
	銀製首飾	0
	モンの首輪	0
	女性用耳飾	0
	男性用耳飾	0
	女性耳飾	0
	銀紐	0
	男性用胸飾	0
	女性用背飾	0
	胸飾	0
	首飾	0
	腕輪一对	0
	女性手首飾	0
	腕輪	1
	指輪	1
	腕輪につける飾り	0
	胸飾	0
	腕輪	0
	ペンダント	0
十八神像	3	
昭和のカタログ	炊飯器	0
	トースター	0
	トースター (Sg-108) のカバー	0
	トースター	0
	ゆで卵器	6
	ポット	0
	保温器	0
	掃除機	0
	蒸し器	0

展示コーナー名	資料名	票数	
昭和のカタログ	テーブルロースター	0	
	調味料 (いの一番)	0	
	調味料 (味一番)	0	
	調味料 (だし亭)	0	
	調味料 (タケシオ)	0	
	調味料 (味の素)	1	
	調味料 (ハイ・ミー)	0	
	アイロン	1	
	裁縫セット	3	
	氷冷蔵庫	4	
	冷蔵庫	3	
	電子レンジ	2	
	ガスオープン	1	
	洗濯機	2	
	時計	0	
	ジグソーパズル	0	
	松代の史跡と文化財	0	
	ラジオの初歩から組み立てまで 松尾誠	0	
	オーディオ空間マニュアル 一木吉典	0	
	東海の昆虫 安藤尚 岡田正哉 横地鋭典	0	
	あすけのことわざ	0	
	クッキング特集 宮本三郎	0	
	映画パンフレット	0	
	水筒	0	
	ゆたんぼ	2	
	こたつ	0	
	アンカ	1	
	ラジオ	0	
	ラジオカセットレコーダー	0	
	ウォークマン	5	
	マイク	0	
	デラックスえほんレコード よいこのゴールデン童謡集	1	
	ジングルベル ホワイト・クリスマス	1	
	スーパーリカちゃん	0	
	スライドプロジェクター	0	
	カメラ	2	
	民芸品	0	
	テレビ	9	
	ステレオ	1	
	西江コレクション	鹿頭蓋骨	0
		仮面	11

展示コーナー名	資料名	票数	
西江コレクション	ドリーム・キャッチャー	2	
	コヨーテ・スカル	0	
	魔女ランダの仮面	48	
	胸飾り	0	
	ベニスケース	1	
	サメの顎	3	
	仮面	1	
	サンゴベルト	3	
	コノハムシ標本	3	
	カブトムシ標本 (ヘラクレス・ヘラクレス)	5	
	ドリーム・キャッチャー	0	
	馬の頭骨仮面	10	
	棍棒 club	0	
	胸飾り	0	
	ストーリーボード	24	
	スカルラック	1	
	親指ピアノ	36	
	ロンゴロンゴ文字を記した石	1	
	ゾウリ	1	
	彫刻	6	
	飾り	1	
	仮面	0	
	サメの顎	0	
	散骨仮面ドルーダ	19	
	ウミガメの剥製	13	
	仮面	0	
	ムワリ	3	
	踊り具	0	
	ヒラタナナフシ標本	6	
	蝶の標本	0	
	錠前	3	
	抽象彫刻 (人像)	32	
	カヌー船首飾り	0	
	テコテコ像	0	
	ウジャマ彫刻	0	
	妊婦像	1	
	シェタニ像	8	
	精霊像	0	
	ティキ像	0	
	引出し展示／考古資料	剥片	0
		石核	0
ナイフ形石器		0	

展示コーナー名	資料名	票数
引出し展示／考古資料	スクレイパー	0
	抉り入りスクレイパー	0
	剥片	0
	石核	0
	細石核	0
	縦剥片	0
	打製石斧	0
	尖頭状スクレイパー	0
	石錐	0
	打製石錐	0
	砥石	0
	敲石	0
	弥生時代後期の土器	0
	古墳時代初頭の土器	0
	中世土器	0
	縄文早期の土器	0
	縄文前期前半の土器	0
	諸磯式系土器	0
	粗畑式系土器もしくは茅山式土器	0
	里木Ⅱ式土器	0
	北裏c式土器／(接合済)	0
	条痕文系土器	0
	皿／(接合済)	0
	近世陶器	0
	山茶碗	0
	石鏃	0
	敲石	0
	細石核	0
	スクレイパー	0
	諸磯b式土器	0
	北白川下層式土器	0
	縄文前期後半の土器	0
	縄文前期の浅鉢形土器	0
	打製石斧	0
	磨製石斧	0
	石錐	0
	石匙	0
	スクレイパー	0
	石錐	0
	石鏃	0
	石庖丁	0
銅鐸片	0	

展示コーナー名	資料名	票数
引出し展示／考古資料	銅鏃	0
	棒状骨器	0
	骨角器類	0
	骨鏃	0
	銅鐸形土器製品	0
	貝輪	0
	ゴホウラ製貝輪	0
	欽形石	0
	車輪石	0
	イモガイ製貝輪	0
	石釧	0
	銅釧	0
	管玉	0
	勾玉	0
	切子玉	0
	滑石製小玉	0
	小玉	0
	環頭	0
	袋状鉄斧	0
	石製模造品（斧）	0
	銅鏃	0
	鹿角鉄刀子	0
	鉄刀・刀装具	0
	刀子	0
	石製模造品	0
	鉄鏃	0
	鉄刀	0
	鏡板	0
	杏葉	0
	轡	0
	馬鐸	0
	辻金具	1
	飾金具	0
引出し展示／鏡類	山文字鏡	0
	蟠螭文鏡	0
	虺龍文鏡	2
	異体字銘帯鏡（清白鏡）	0
	内行花文鏡	0
	獸帯鏡	0
	三角縁神獸鏡	1
	四獸鏡	0
	鏡片	0

展示コーナー名	資料名	票数
引出し展示／鏡類	三角縁六花文白銅鏡	0
	和鏡	2
引出し展示／考古資料	釣針	0
	逆T字形釣針	0
	根挟み	0
	土錘	0
	腰飾	0
	貝輪	0
	ヤス状刺突具	0
	刺突具	0
	鹿角製垂飾	0
	刺突具	0
	器種不明骨角器	0
	骨針	0
	磨製石斧	0
	イノシシの腓骨製ヘラ	0
	イノシシの牙製垂飾	0
	サメ類脊椎未加工品	0
	球状耳飾	0
	骨製釣針	0
	骨鏃	0
	イモガイ製垂飾	0
	石匙	0
	土製品	0
	石鏃	0
	鹿角製儀器	0
	刺突具	0
	土器片錘	0
	鹿角製装身具	0
	軽石浮子	0
	土偶（頭・肩）	0
	土偶（足部）	0
土偶（胴部）	0	
土偶（胴・足部）	0	
岩偶（頭・胴部）	2	
土版	0	
土偶（頭部）	0	
土偶（一部欠損）	0	
大須二子山古墳（名古屋市指定文化財）	二子山古墳出土遺物	7
	衝角付冑	0
	挂甲	2
	挂甲小札	0

展示コーナー名	資料名	票数
大須二子山古墳（名古屋指定文化財）	挂甲（部分）	0
	f字形鏡板付轡	0
	剣菱形杏葉	2
	心葉形杏葉	0
	馬具類	1
	画文帯神獸鏡	1
	須恵器・器台	0
	円筒埴輪	1
	須恵器・高杯	0
	須恵器・コップ形	0
	須恵器・大甕	0
	須恵器・壺形	0
	韓系土器・椀	0
	蓋形埴輪片	0
	朝顔形埴輪片	0
形象埴輪片	1	
独立ケース	魔境	0
	把手付土器	0

回答数 792 件

側には、収蔵庫内をガラス越しに見学できる収蔵展示コーナーがある。続いて『昭和のカタログ』として、人類博の担当教員だった重松和男氏による収集品で、昭和初期の家電製品を中心にレコードや民芸品などが並ぶ。

これらの展示資料は、合わせて1,855点を数える。壁面を最大限活用することで、展示面積に比して多くの資料が展示されている。しかしながら、収蔵資料数が10万点を超えるともいわれる人類博収蔵品のわずか2%を展示しているに過ぎない。またいわゆる民俗資料・民具に至っては、常設展示では、ほとんど展示されておらず、未展示の収蔵資料と合わせて、その活用方法等大きな課題の一つといえる。

「あなたのお気に入りは何ですか？」

さて、前述したアンケート結果についての整理・分析を試みたい。

- ・調査期間：2023年9月～2025年1月（17ヶ月間）
- ・調査期間内の入館者数：11369人
- ・回収できたアンケート数：792件（入館者数比：約7%）
- ・「お気に入り」選定対象資料：常設展示品 1855点

・分析方法：投票結果をもとに、来館者の「お気に入り」に選ばれた展示品の、配置・種類等を確認する。

※なおアンケート回答者の年齢・性別等については、確認できていない。また、どのような状況で来館されたのか、一緒にいたのは誰か、などについて確認できれば様々な要素を検討・判断し得る材料にはなるだろうが、基本的にこれらのデータはない。ただし、比較的「こども連れの来館者」には「缶バッチプレゼント」をキーワードに勧めるようにしていたという（前掲註1）。厳密にその状況等が分かれば、より詳細な検討・分析ができるような、「お気に入り」アンケートになり得るであろう。この点も今後の課題の一つとしておきたい。

さて、アンケート回答の集計結果は表2に示した（註2）。目立つところでは、「縄文土器 93」「火踊りの仮面 69」「位階象徴像 50」「魔女ランダの仮面 48」「太鼓 39」「スリットゴング 37」「親指ピアノ 36」「抽象彫刻（人像：マコンデ彫刻） 32」「ストーリーボード 24」「弥生土器 22」（※数字は得票数）がランキングのベスト10になる資料である（図2）。

まずは順不同にはなるが、得票数の多かったこれらの資料を概観してみる。

「縄文土器」「弥生土器」は、個別の土器を選んだアンケートも一括していることから、特に縄文土器では点数が多くなっているが、やはり「教科書に載っている土器」の本物があることや、そもそも授業で習った縄文土器の「本物」にさわれる！ というところが人気の理由であろう。そしてそれは「弥生土器」もおそらく同様で、かつ縄文土器と「比較しやすい」ということから、印象に残った可能性は高い。

「抽象彫刻（人像）」も同様に一括しているが、「顔・表情」のあるものに視線が行きやすいという、ヒトの心理的な特性・傾向からも、個別にそれぞれ気に入ったモノがあることは想像に難くない。しかし残念ながら今回のアンケートでは、具体的にどの像を選んでいるのか、ということまでは把握できていない。「火踊りの仮面」「位階象徴像」、あるいは「魔女ランダの仮面」も同様かも知れないが、やはり「表情」のある資料には感情を乗せやすいという可能性は高く、加えてこれらの資料は物そのものが大きく、目立つというニュアンスもあるのかも知れない。

「太鼓」や「親指ピアノ」などの楽器の人気は根強い。あるいは「スリットゴング」も同様なのかも知れないが、「触る」+「音＝聴く」という複数の感覚を使



1位：縄文土器 93票



9位：ストーリーボード 24票



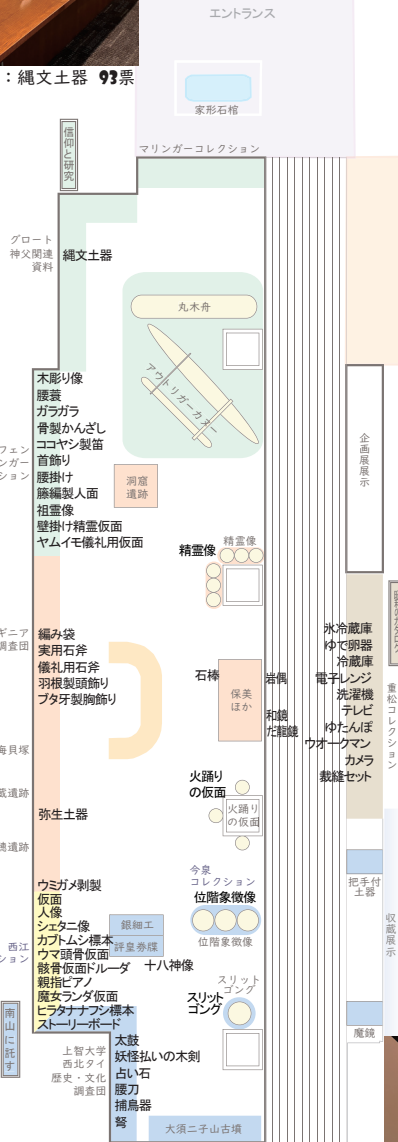
4位：魔女ランダの仮面 49票



7位：親指ピアノ 36票



3位：位階象徴像 50票



8位：抽象彫刻／人像 32票



10位：弥生土器 22票



2位：火踊りの仮面 69票

6位：スリットゴング 37票

図2 「あなたのお気に入りは何ですか？」ベスト10と得票のあった資料の配置状況

うことが、より自身の中での強い印象になっていることも、想像に難くない。

「ストーリーボード」は、表情豊かな人々が描かれていることや、文字通り「物語・ストーリー」性の高い資料として言葉による説明がなくても理解できる・感じられる資料であることなど、感情移入しやすい要素が揃っていることが、人気に結びついているのであろう。

「お気に入り」からみえてくること

さて、これらの資料が、上述のようにその特徴等からお気に入りに選ばれた可能性は、もちろん考慮する必要はある。その上でもう一つ、資料の「置かれた場所」についても、選ばれやすい理由の一つになっているのではないかと感じている。というのも、「縄文土器」以外は、展示室の奥側に配置された資料だからである。入館後、いろいろな資料に触れ、体感・経験を重ねていく中で、自身の「触覚」が研ぎ澄まされ、後半、つまり展示室の奥にある資料ほど、「触る」ことを通じて自身の印象に残りやすく、「お気に入り」に選ばれやすくなる、という状況もあるのかも知れない。

また、この観点でみると、蓋付ケースや引き出しに入っている資料は、やっぱり選ばれにくい、という傾向があるということも言えそうだ。例えばタイの銀細工や三角縁神獣鏡など、特に後者は破片資料ではあるが、前後者ともに、蓋を開けて触る様子を観ると、記念撮影をする姿が頻繁に見られる。つまりその資料に触れたことそのものは、特にその「撮影者」にとっては間違いなく印象深かった可能性が高く、おそらく記憶に残るものになっていよう。その一方で、引き出しを開けなかった、あるいは開けても触らなかつた場合、記憶や印象に残る可能性はやはり低くなるのではなからうか。

さらにもう1点、気になることがある。前掲図2を見ると、一見展示室全体に選ばれた資料が分散しているようにも見受けられるが、多様な資料が選ばれているにも関わらず、得票数を「2」以上に限ると、考古資料では縄文土器・弥生土器・岩偶・青銅鏡しか選ばれておらず、それ以外の多数の「石器」はほとんど選ばれていない。例えば「マリンガーコレクション」などでは、並置されている抽象・具象的な動物彫刻等は少ないながらも得票があるものの、顕著な特徴をもつはずの「70万年前に遡る石器」などは、ほとんど選

表2 アンケート集計結果

展示コーナー	資料名	合計
マリンガー コレクション	スクレイパー	1
	骨角製器・女性像（複製品）	1
	動物の牙（熊）	1
グロート神父 関連資料	縄文土器	32
	深鉢／前期・勝坂式	15
	深鉢／前期・ニツ木式	13
	深鉢／中期・加曾利E式	17
	浅鉢／後期・堀之内式	8
	深鉢／中期・加曾利B式	6
	深鉢／後期・安行2式	2
アウフェンアンガー コレクション	木製皿	1
	木彫り鳥像	4
	木彫りワニ像	6
	有刺剣	2
	ワニ型木製容器	1
	腰みの	4
	ガラガラ	4
	骨製短剣	1
	骨製かんざし	5
	びんろうじ割り器	2
	ココヤシ製笛	3
	首飾り	8
	キンマ用石灰入れとなめ棒	2
	祖霊像	3
	あかくみ	1
	腰掛け	10
	彩色木製壁掛け精霊仮面	2
	貝殻裝飾付壁掛け精霊面	4
	結納用藤編み製人面	4
	小型ヤムイモ儀礼用仮面	12
ヤムイモ取穫儀礼用仮面	9	
木製壁掛け精霊仮面	5	
ハンドドラム	1	
東ニューギニア学術 調査団関係（民族誌 資料）	小型編み袋	6
	竹笛	1
	実用石斧	4
	儀礼用石斧	10
	弓	1
	ヒクイドリの羽根製頭飾り	6
	ブタの牙の胸飾り	2
	サイチョウの嘴製背飾り	1

展示コーナー	資料名	合計
東ニューギニア学術調査団関係〈民族誌資料〉	ブタの毛付き前掛け	1
	貝製首飾り	1
	シロチョウ貝製首飾り	1
	ブタの牙製首飾り	1
	子安貝のついた縄	1
	木鍬	1
	〃〈考古資料〉	d層出土石器／打製石器
入海貝塚関係	甕／深鉢・入海式土器模造品	1
弥生土器	鉢／前期・遠賀川式	4
	鉢／後期・山中式	12
	壺／前期・条痕文系土器	1
	／古墳時代前期の土器	3
	バレス壺／後期・山中式	1
	高杯／後期末・廻間I式土器併行期	1
今泉コレクション	火踊りの仮面	69
	位階象徴像	50
	スリッド・ゴング	37
保美貝塚	石棒	3
	装身具（垂飾）	1
	敲石	1
	貝輪製作用石器	1
上智大学 西北タイ歴史・文化調査団	弩	4
	捕鳥器	3
	ヒョウタン型水入れ	1
	腰刀	3
	鉞	1
	穂摘み具	1
	女性用スカート	1
	太鼓	39
	女性ズボン用刺繍布	1
	儀礼用鈴	1
	祭司が使う古い石	2
	妖怪を追い払うための木製の剣	6
	首輪	1
	腕輪	1
	指輪	1
	十八神像	3
昭和のカタログ	ゆで卵器	6
	調味料（味の素）	1
	アイロン	1
	裁縫セット	3
	氷冷蔵庫	4

展示コーナー	資料名	合計
昭和のカタログ	冷蔵庫	3
	電子レンジ	2
	ガスオープン	1
	洗濯機	2
	ゆたんぼ	2
	アンカ	1
	ウォークマン	5
	デラックスえほんレコード よいこのゴールデン童謡集	1
	ジングルベル ホワイト・クリスマス	1
	カメラ	2
	テレビ	9
ステレオ	1	
西江コレクション	仮面	11
	ドリーム・キャッチャー	2
	魔女ランダの仮面	48
	ペニスケース	1
	サメの顎	3
	仮面	1
	サンゴベルト	3
	コノハムシ標本	3
	カブトムシ標本（ヘラクレス・ヘラクレス）	5
	馬の頭骨仮面	10
	ストーリーボード	24
	スカラック	1
	親指ピアノ	36
	ロンゴロンゴ文字を記した石	1
	ゾウリ	1
	彫刻	6
	飾り	1
	骸骨仮面ドルーダ	19
	ウミガメの剥製	13
	ムワリ	3
ヒラタナナフシ標本	6	
錠前	3	
抽象彫刻（人像）	32	
妊婦像	1	
シェタニ像	8	
引出し展示／考古資料	辻金具	1
引出し展示／鏡類	虺龍文鏡	2
	三角縁神獸鏡	1
	和鏡	2

展示コーナー	資料名	合計
引出し展示／考古資料	岩偶（頭・胴部）	2
大須二子山古墳（名古屋指定文化財）	二子山古墳出土遺物	7
	挂甲	2
	剣菱形杏葉	2
	馬具類	1
	画文帯神獸鏡	1
	円筒埴輪	1
	形象埴輪片	1

回答数 792 件

ばれていない。また、同様に東ニューギニア学術調査団による洞窟遺跡調査で採取された石器類もほぼ選ばれていない。

その一方で、パプアニューギニアの儀礼用石斧・実用石斧は、合わせて14票を得ているので、石器そのものが決して人気がない、という訳でもなさそうである。特に、マリナーコレクションは露出展示なので、「触れない」という理由もなさそうである。ではなぜ選ばれていないのか？ その理由としては、前述したような、「配置場所」の影響というのは考慮するにせよ、やはり少なからず「石器」が印象に残りにくいという可能性は指摘できよう。その対処としては例えば「見せ方」を少し変える等の工夫も必要かも知れない。この辺りは今後の課題としておきたいし、何らかの形で検証もしてみたい。

「お気に入り」の使い途

筆者がこの「お気に入り」アンケートに注目したのには、もう一つ理由がある。来館者の様子を観ていく中で、この「お気に入り」を選ぶという活動そのものが、その後の様々な展開を呼び起こす可能性が高いと感じたからである。

前述のとおり、このアンケートの回答者の年齢等については、正確な記録は全く無いものの、こどもを含む家族連れの回答が一定数含まれているという（前掲註1）。そこで、2025年4月以降、筆者が看取した、主に家族連れを中心とした来館者の様子を参考に、その可能性や今後の展望を考えてみたい。

本年4月から7月末までの時点で、2歳2ヶ月・2歳10ヶ月・4歳・5歳児の未就学児を含む家族連れの展示を楽しむ様子を観察することができた（註3）。

その中で、2歳2ヶ月の鑑賞の様子を紹介しておく。

父・母・息子（2歳2ヶ月）の3人で来館。息子、いろいろな資料に興味をもって、触って、持って、叩いて、などとても嬉しそうに楽しむ。収蔵庫前のベンチを気に入ってしばらく座る。母が太鼓を叩くのをみて自分でも叩こうとするも、高さが届かず早々に諦める。ゾウリは、履いていた靴を自ら脱ぎ、ゾウリに自分で足を入れ、少し歩き、満足そうにしたのち、丁寧にゾウリを脱ぐと筆者のところまで嬉しそうに返しにくる。石斧は2つ目を持った時に、そのまま床（カーペットあり）を「ゴン！」と叩き、両親と筆者ともにびっくりするも、特に石器にも床にも影響はなし。その音？ には本人も驚いたのか、それ以降の石斧は、床に当てようとする時も、そっと叩く真似をするように振る舞っていた。いろんな資料に目は映るが、途中手拭き用のウェットティッシュと「土器を触る時の約束」をかいたポップを嬉しそうに触る。（父曰く、「そういうの好きだね。」とのこと。）「知っているもの」をみてひと安心？ ひと息？ ついた感じか。全般に資料をみる目が常にキラキラしている感じ。レファレンスに置いてあった避難用ヘルメットにも興味津々で、（かぶっていた帽子を自ら脱いで）ヘルメットを自分で被ってみたり、父に被せてみたり、母にも被せようか？ と母の顔を見てやめてみたり。レファレンスのCDコーナーで「トーマス」を探す。缶バッジは、自らまず一つ選び、筆者の顔、父母の顔を見て、父母の分も選んで良いことが分かったと、さらに1つ選び、片方のケースを受付にいた学芸員に返そうとし、さらにもう一つのケースからもう1点を選んでいった。

さて、今回紹介した2歳児は、太鼓・ゾウリなどに興味を示したが、その他の未就学児の鑑賞事例も併せて整理すると、未就学児が反応を示した資料としては、前述のベスト10の中では、太鼓・親指ピアノ・人像・ストーリーボードが挙げられる。加えてそれ以外にも、保護者等同行者が興味を示す資料に対して未就学児が反応を示す場合も少なくない。一方で、アンケートの上位でも「火踊りの仮面」や「縄文土器」「スリットゴング」に対しては、単純に「高さ・大きさ等、未就学児の視界に全容が入りにくい」（火踊りの仮面・スリットゴング）もしくは「付加価値を理解するのに知識が必要」（縄文土器）などといった理由から、特に反応を示さない状況も確認している。

未就学児を対象に～「保育」の視点から～

さて、そもそも人類博のようないわゆる歴史系博物館において、来館対象として認識・考慮されてこなかった存在として、いわゆる「小さな子ども達」が挙げられる。一般に「未就学児」として区分される0歳～5・6歳の子ども達はもちろん、小学3年生での地域学習や、小学6年からの歴史学習を念頭に置いて、「小学校高学年ぐらいにならないと理解できないよね!？」というイメージとともに、小学校低学年の児童も含めて等閑視されることが多い。その一方で、例えば美術館では、近年、「0歳児」を主対象とするワークショップを開催する例もあり、「理解できるかどうか?」ということよりも、「感じて!」を優先した取り組みも始まっている。人類博のように「資料に触る・ふれる」ことを前提にすれば、この「感じて!」を大切に活動は、実はとても取り組みやすい。

人類博では、来館者としての未就学児に関する情報・記録は、残念ながら現時点ではほとんどないことは先述のとおりであるが、本年4月以降、展示を楽しむ複数の未就学児の様子を観察する限り、資料にさわったことをきっかけに、いずれの年齢の児も、自身の思いを伝えようと、自分なりの言葉を発する・発しようとする姿が認められた。それに加えて、例えば「お気に入りは何?」「どれが好き?」と筆者が尋ねると、その資料のところへ行き、一緒にいる家族や筆者に向けて、自分の言葉でその思いを積極的に説明しようとする姿も確認できている。

「5領域」について～『保育所保育指針』より～

保育においては、未就学児の発達・学びを考える際に、保育を通じて育みたい資質・能力を、『発達の特徴を踏まえ、～中略～心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現』という、いわゆる「5領域」に整理、位置づけて、そのねらいをまとめ、示している(註4)。

筆者はこの中でも特に、領域「言葉」、「表現」、「人間関係」の3領域が、前述した「触る・ふれる」体験から「お気に入り」を示そうとする流れの中で、十分に育まれるきっかけになり得るのではないかと考えている。

最新の『保育所保育指針』では、「保育に関わるねらい及び内容」として、領域「言葉」では「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。」、領域「表現」では「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」、さらに領域「人間関係」では「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」とも記されており、それが1歳以上児の目指す姿とされている。(前掲註4)

前述した未就学児の様子は、この考え方に沿えば、「自分の感じたことを言葉にして表現しようとする」、あるいは「好きなモノ」を自己の中で認識し、かつそれを言語化・表現しようとする」という、領域「言葉」・「表現」の発達を促す行動に他ならない。また、前述のような家族や同行者に対して、自分の好奇心と向き合いながら、言葉を発する・発しようとするそのものが、他者との「人間関係」の構築を試みる、というトレーニングにすらなる。

対話型鑑賞に向けて～「博物館教育」的視点から～

このような状況は、博物館学的には「対話型鑑賞」へと発展する契機としても、十分に捉え得る。モノに「さわる」という行為を通じて、「好きなモノ」を認識し、自ら積極的かつ能動的にモノに対峙しつつ、その上で思い・気づきなど、自己の中で好奇心あるいは自己の価値観として向き合い、しかもそれを「言葉」化しようとすることで、自己の中での整理・定着を促すことになる。この流れは、まさに「構成主義」に軸足を置く活動として理解し得る状況であり、博物館教育において肝要とされる「自ら能動的・主体的に学ぶ」状況に他ならない。そしてその思いを他者に表現しようとするれば、「対話」が生まれるのだ。

厳密な意味で「対話型鑑賞」が成立しているかどうか、という点については、もう少し検討の余地はあるかも知れない。しかし少なくとも、資料に「触る・ふれる」ことから、「思いの言葉化」、さらにその先に「対話」が生まれ得る状況が存在し、かつ「対話型鑑賞」への導線がうかがえることが、博物館や展示資料が、十分に学びの素材になることを示している。

「愛着」形成と「お気に入り」～アタッチメント形成を視座に

こうして考えると、「お気に入り」を見つけることから始まる博物館における諸活動は、博物館学的にも、あるいは保育・幼児教育においても、十分に意義を持つ効果的な活動になり得るであろう。そして実は、この状況はさらに広く展開する可能性を持っている。

例えばモノやヒト、あるいは場所、事柄などに対して、「愛着」を感じたことはないだろうか。その「愛着」感情の形成は、保育あるいは発達心理学では、「アタッチメント」と呼ばれる概念を用いて説明されることが多い。この概念は、幼児期における親子関係や、こども達と例えば保育者との関係の中で確認できる、ある種の精神的な繋がりを示す概念である。また近年の研究では、必ずしも幼児期だけのものではなく、成人になっても他者との間で類似構造が形成されることが指摘されている。筆者は、そこからさらに、それが幼児・成人など「ヒト×ヒト」の関係間だけでなく、「ヒト×モノ」あるいは「ヒト×場所」間でさえも、類似構造が成立しているのではないかと、という点について「擬似アタッチメント」という造語とともに言及したことがある（鈴木2023）。モノや色、味、匂い、ぬくもりなど、一般にいわれる「愛着」として表現される状況、様子、感情は、まさにその類似構造が端的に現れている例ではないか。そしてさらに、このモノへの「愛着」は、さらにそのモノを有する博物館への「愛着」の形成へと発展する可能性すらあるのではなからうか。

おわりに～今後に向けて

本稿では、人類博が行なってきた活動の一つ、「お気に入り」アンケートに注目して、博物館の現状と、今後の可能性について言及してきた。筆者自身、博物館活動における、「教育普及」的側面に強い関心があることもあって、どうしても偏った見解になっていることは否めないが、それでも、人類博の一つの傾向については整理できたように思うし、いくつかの課題も提示できた。

今後は、少しずつこれらの課題についてもアプローチしつつ、博物館活動の根幹にある、「博物館資料」についても、自分なりに考えを整理しつつ、向き合っていきたい。

謝辞

「お気に入り」アンケートは、先述した通り、筆者が実施したのではなく、人類学博物館に在籍していた学芸員を中心に、館のスタッフ全員、それからアルバイトの学生にも協力してもらいながら取り組んできたものと聞いている。今回、その努力と苦勞にどの程度報いることができたのかは甚だ心許ないが、人類学博物館が取り組んできた活動の一つとして、学芸員・スタッフの方々に謝意を示すとともに、その活動の一つとして紹介する機会となれば幸いである。

註

- (1) 主に本アンケートに関わった学芸員からの聞き取りによる。
- (2) 来館者全体の中で、任意提出してもらった回答を集計。なお先述の通り来館者についての年齢・性別等詳細は不明である。
- (3) 参与観察は、同行保護者にその旨説明し了承いただいた上で実施した。
- (4) 平成30年施行の「保育所保育指針」の該当箇所記述を引用。

〈参考文献〉

- 数井みゆき・遠藤利彦編著『アタッチメント～生涯にわたる絆～』ミネルヴァ書房、2005。
- 汐見稔幸・無藤隆監修『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房、2018。
- 福のり子・北野諒・平野智紀編集『ここからどう進む？ 対話型鑑賞のこれまでとこれから アート・コミュニケーションの可能性』株式会社淡交社、2023。
- 鈴木康二「ワークショップに参加した学生の「気づき・学び」～相対したヒトの反応をきっかけとして～」考古学研究会第69回研究集会ポスター発表、2023。

“Find your favorite”: towards “verbal” studies weaved by “touching” & “dialogue”

SUZUKI Koji

Nanzan University Museum of Anthropology professes to be “a universal museum” and “for everybody’s curiosity”, collecting and exhibiting archaeological and folklore collections, positively encouraging visitors to touch all the items in the exhibition room.

We previously carried out a questionnaire “What’s your favorite?”. 792 answers were collected (about 7% of the visitors), among them the most popular items were: Jomon potteries (93 faves), Mask for fire dance (69), Grade Figures (50), Mask of Rangda (48), Drum (39), Slit Gong (37), Thumb Piano (36), Abstract Statue (human statue: Makonde statue) (32), Story Boad (24), and Yayoi potteries (22). We presume the positive reasons for the choice would be (1) found in school textbooks, (2) real materials (not replicas), (3) easy to compare, (4) showing a human face, or having some expressions, (5) sound making (can be played and audible), and (6) narrative characteristics. The background to less popular answers would be (7) items’ less impressive characteristics, (8) not appealing because of less accessible location, and so on.

Moreover, we inferred from the reactions of visitors that “finding favorite” itself can provoke further movements. For instance, preschool children enjoying the exhibition showed active reactions, such as expressing their feelings when they touched museum items. Some children who were asked about their favorites tried to express their feelings positively, by approaching their favorable items, to family members or museum staff. Such situations are equivalent to the verbal/ expressive development-stimulating action in the field of early childhood care and education; enhancing “trying to express his/her own feelings by word” or “recognizing his/her “favorite” and then verbalize/express”. Such situations are also related to the criterion of museum education, namely “positive/proactive learning by oneself”, implying that museums and their collections can serve as educational tools for children in their everyday lives.

Activities stemming from “finding the favorite” would be significant and effective for both museum and early childhood care and education.

2025年12月15日 印刷

2025年12月20日 発行

南山大学人類学博物館紀要 第44号

編集・発行人 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町18

Phone 052(832)3147 (直通)

印刷 株式会社クイックス

456-0004 名古屋市熱田区桜田町19-20

Phone 052(871)9190

ANNUAL BULLETIN
OF
Nanzan University Museum of Anthropology

NO. 44 2025

Nanzan University Museum of
Anthropology
NAGOYA JAPAN